

## 平成 28 年熊本地震災害リハビリテーション支援活動報告

公益社団法人神奈川県理学療法士会災害対策本部  
下田 栄次 松田 梓

### 【はじめに】

今回、熊本現地災害対策本部にて本部運営に関わるロジスティクス(※以下、ロジ)スタッフとして災害リハビリテーション(以下、リハ)支援活動を実施いたしましたのでご報告致します。

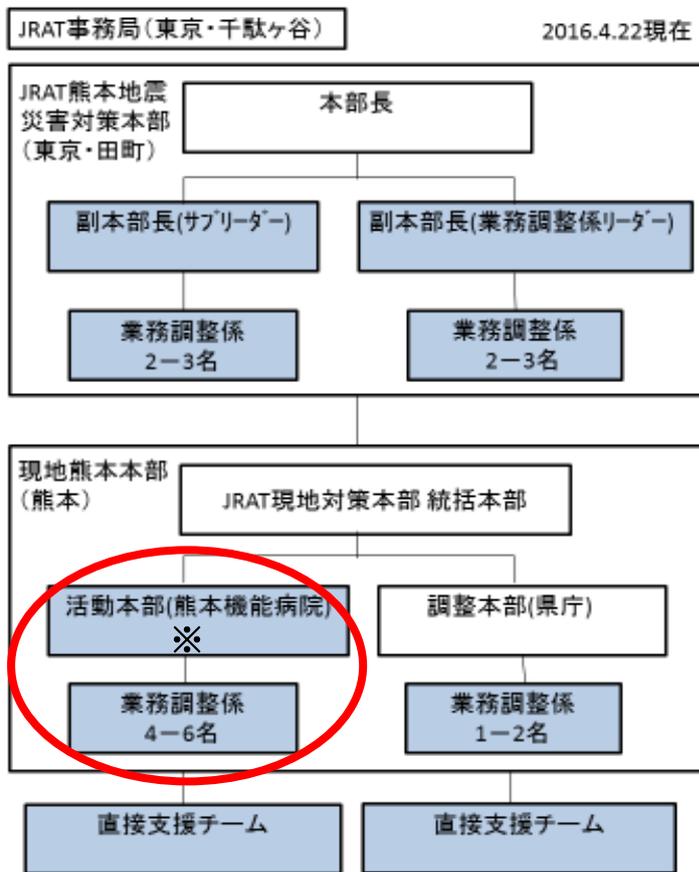
(※)ロジスティクス・業務調整員:情報収集、連絡、調整、記録等々を担う

### 【本会の災害リハ支援活動までの概要】

- ・公益社団法人 神奈川県理学療法士会(以下、本会)では平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分に発生した「平成 28 年熊本地震」を受けて、4 月 19 日(火)付けで本会災害対策本部、神奈川 JRAT(Japan Rehabilitation Assistance Team:大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会、以下 JRAT)災害対策本部を本会事務局に立ち上げる。本会災害対策本部長を林克郎会長とし、連絡窓口を本会事務局に設置した。  
災害リハ支援活動と並行して JRAT を中心とした現在の支援状況の確認とこれからの動向について話し合うために、平成 28 年 4 月 27 日(水)に本会事務局にて災害対策本部会議を開催した。
- ・第 1 回災害対策本部会議では、本会災害対策本部における各班の役割を確認、災害対策本部の立ち上げや運営に関わる規定の見直し(①災害時行動指針(ガイドライン)、②災害対策本部立ち上げ規定、③大規模災害および局地災害を被った近隣の都道府県士会への支援に関する規程)と、「平成 28 年熊本県地震」への対応として「本会として何ができるか」を検討した。また神奈川 JRAT としてのこれまでの動きと骨子(方向性)についても併せて確認し、広い範囲の検討となった。  
併せて、神奈川 JRAT としての方向性も審議し、先遣隊(0 次隊)では、「支援者支援」「支援者サポート」をチームコンセプトに、JRAT 現地災害対策本部へのサポートに入る事で決定した。



【JRAT における組織概要】



【JRAT 東京本部体制】

本部長: 里宇明元

①サブリーダー②ロジリーダー

③連絡 ④記録

○各担当をリハ医学会所属医師

PT 協会 OT 協会

回復期病院協会

デイ・ケア協会

各団体の理事・役員が担当

【JRAT 現地対策本部体制】

統括本部長: 田代 桂一 医師

(山鹿温泉病院)

調整本部(熊本県庁)

統括本部長: 三ノ宮 克彦 PT

(熊本機能病院)

調整本部業務調整係(ロジ)

熊本県 3 士会会長

○今回の災害リハ支援活動では**赤丸**部分の活動本部業務調整係を担当

※活動本部の副本部長(熊本機能病院)は熊本県 POS3 士会副会長が担当

【JRAT 現地災害対策本部 構成及び活動内容】

本部長 医師

副本部長 本部長補佐 電話対応 ミーティング進行

ロジ1 クロノロジー記載 宿泊管理 ミーティング記録

ロジ2 メール確認 活動報告管理(収集、データ入力・送信)

ロジ3 備品管理 控室管理 環境整備

ロジ4 オリエンテーション補佐 データ管理 クロノロデータ化

ロジ5 出勤簿管理 派遣予定者管理

その他 翌日の活動予定表の作成

ホワイトボードの記載

## 【活動内容】

日時: 4月30日～5月5日

場所: 熊本機能病院内 JRAT 災害対策本部

### ○ロジとして実施した業務内容

- ①電話・メール対応
- ②帳票類の管理、整理、提出
- ③クロノロジー(書記)
- ④クロノロジーおよびその他紙ベース記載データの電子化
- ⑤各現地支援隊への情報提供
- ⑥各現地支援隊の派遣場所調整と各隊との情報交換
- ⑦現地支援隊とロジスタッフの宿泊場所調整
- ⑧各種マニュアルの作成

今回の支援活動にて上記した【JRAT 現地災害対策本部 構成及び活動内容】を整理し、業務調整系の業務分担を可視化させた。また、これまでの活動記録をまとめて情報を集約、これまでの各地域における活動報告書を一本化、各種帳票類の管理とフォーマット作りに着手した。

### 【5月4日現地活動記録】

熊本市東区や中央区では、避難所の集約作業や聞き取り調査、避難所の巡回からアセスメント、医療ニーズ、リハニーズの調査が不十分な避難所があり、避難者や要援護者に関する情報を区や保健師も把握が困難である事を踏まえ、熊本の現地支援隊に同行し、避難所の集約に伴う避難所のサーベイやアセスメントが不足している熊本市東区を中心に指定避難所や指定避難所以外の避難所を巡回した。指定避難所以外の避難所を巡回しながら要配慮者、要援護者の有無を確認し、これまで巡回した避難所では、継続ケースのフォローや情報交換を実施した。

### 【成果と課題】

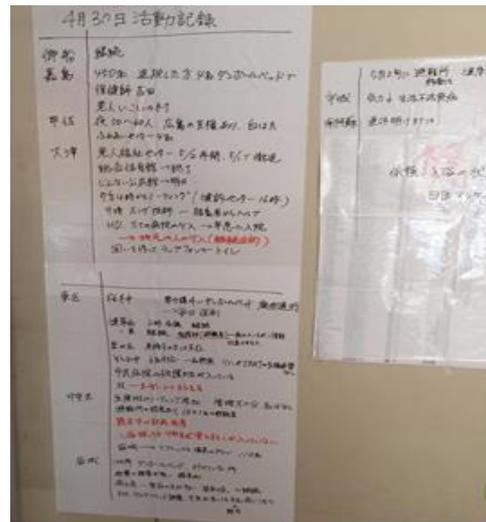
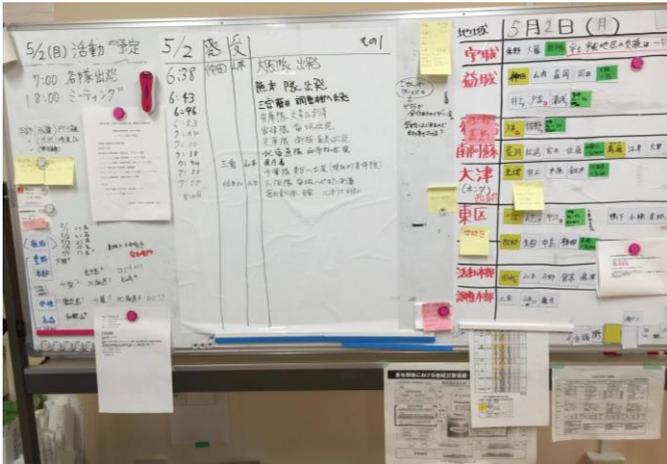
今回の災害リハ支援活動により、現地災害対策本部におけるロジ業務とこれまでの記録情報を集約し整理出来た事、調整本部業務や現地災害対策本部の具体的な人員配置やロジ業務の詳細を経験した事、また現地にて避難所を巡回する事で身体機能の改善や予防、医療・介護保険サービスに移行出来た事は、大きな成果であったと考える。被災地では、各地域にて医療ニーズやリハニーズ、不足している生活用品、インフラの復旧状況においても違いがあり、柔軟な対応が求められた。本部運営やロジの観点からもそのニーズを把握しながら活動する難しさがあった。

今後の課題として、ロジにおいても現地支援隊においても、活動期間も短期間である為、一次隊チーム間や他職種団体との情報共有や連携が今後の課題として挙げられる。

また今後の士会組織における災害対策として、災害時には県士会長や副会長が調整本部や現地災害対策本部の本部長、副本部長の役割を担う必要がある。支援要請に関わる受援体制を整備する上でも災害時における組織編制を理解して災害対策本部の立ち上げから運営および本部長、副本部長の補助としてロジ業務が出来る人材を育成していく必要性を強く感じた。

以上

【活動本部の様子】



【避難所の様子】





【医療ミーティングの様子】

